

# 赤字

札幌市医師会  
しのろ眼科医院

## 小阪 貴

原稿提出のご指定でしたので一筆啓上。中身の無い老人の愚痴のみですので、どうぞスルーしてください。間違っても貴重な時間を浪費されませんよう。

先日、新聞に「〇〇病院巨額累積赤字」との記事が出ました。「えっ、あの質実剛健・大胆不敵な病院が？」と目が点になりました。そして、そこでの30年以上前の一年間が鮮やかに蘇り、さらに人類の英知を極限まで駆使しても、医療経営は結局赤字になるのかと悲しくなりました。

当時の院長先生は、年来の大赤字を黒字化して「〇〇病院中興の祖」と呼ばれた方で、旧帝国海軍の江田島海軍兵学校のご出身とのこと。上下の背広型白衣で、背筋がピンと伸び、白い軍帽と海軍式短剣を吊れば、まるで戦艦「大和」の連合艦隊司令長官山本五十六元帥のようでした。さて、その「必勝の信念」と「突撃精神」に裏付けされた壮絶な作戦とは。

### (1) 赴任旅費の巻

もらった茶封筒には、あて先「〇〇病院事務局様」で、切手に消印が。

「何これ？」

「あー、それ裏です」

ひっくり返すと、掠れたゴム印で「旅費」と。「来た封筒を取り置いて、どうでもいい時に再利用か！」とびっくり。そして、中身が2,500円でまたびっくり。「小学生の遠足のバス代か？」。

ところが次の日、事務官が青い顔して飛んできて、

「すみません。ミスでした」

「そうだよー。2桁ミスったのね」

「とんでもない。500円多かったです。返してください」

なんと、札幌からの一年交代出張医の旅費が2,000円ぽっきりだったんです。「当院の旅費は、国鉄の普通列車料金で算出します」と胸を張って帰りました。もちろん、正社員じゃないですけど、家族持ちの先生なら大赤字ですよ。T病院に出張した先生は、私の60倍でした。ここは、舌も出さないんだと絶句！

### (2) カルテの巻

出てくるカルテが、シワシワガバガバなんです。なんと、眼科受付で、あの「ヤマトのり」で1枚ずつペタペタ貼っているんです。子どもの図工じゃあるまいし。水分が多いからガバガバで、乾きが遅い

のでめくるとペロッと剥げるんです。これには耐えられず、私財投入でスティックのりを大量に買い込み、使用してもらいました。ため息が！

### (3) マジックペンの巻

出なくなったのでポイしたら、看護師さんが飛んできて、

「ダメです。再利用するので、捨てたら大目玉です」

「えっ、これ使い切りタイプだよ？」

「違うんです。事務にインクがボトルキープしてあり、営繕のおじさんがアルミチューブをこじ開けて補充するんです」

再び絶句です！

### (4) 扇風機の巻

眼科は、ほぼ暗室内での仕事です。かの地は、夏は酷暑で冬は極寒の地。病院の窓は何故かおしゃれで、一面のみの窓は両側が少しだけ開くタイプ。これに暗幕ですから、風はまず入りません。夏は患者さんと共に汗びっしょりです。せめて扇風機をと泣いても「そんな予算は無理です」。とうとう、自分の宿舍用に買った私物を、毎日持参通勤となりました。

信じられます？ まあ、書き始めたら止まりません。

しかし、この病院の医療の質は高く、私の上司の先生・他科の先生方・看護師さんたちは皆さん勤勉で、素晴らしい人ばかりでした。おかげさまで、何とか一年間夜逃げせずに済みました。でも、あの院長先生の退官後、反動で普通の経営に戻っちゃったんでしょか？ 〇〇病院の前途に、幸多かれと祈らずにはられません。

### 追伸

また新聞に「巨大赤字解消のため、医師と看護師の給与のみ削減か？ 身を切る経営努力が、強く求められている」と出ました。失礼ながら、あの当時でも、病院の医師給与額は相当に身を切っていたはず。悲しい時代になってきました。日本の夜明けは、まだ遠いのでしょうか。